

- 21) 東海水研 資源部：謄写刷 (1968)
- 22) 平本紀久雄：日水会誌 34(1) (1968)
- 23) 東海水研：東海区長期漁況予報 №16 (1968)

2 1963年と1968年の気象と海況

進士福太郎(気象庁)

1) ま え が き

新聞紙上などで本年(1968)の海況は異常であると報道されていたので、異常年と云われた1963年と比べてみたことを報告したい。

使用した資料は、両年の1月から5月までの極東の月平均地上気温・同期間の500mbの北半球高度・同偏差(気象庁長期予報管理官室作成)および気象庁に打電された海上実況気象通報の水温と我国海洋機関から送付された資料による1月から5月までの日本近海月平均表面水温(偏差・160°E以西)・深さ100mの2, 5月の両年の水温資料である。

2) 気 象

本年1月は500mbの気圧配置が1963年の1月と良く似ていて、類似度は73%である。異なる点は1963年が西冷であるのに対して、本年は北暖が主体になっていたことである。

500mbのジェット的位置は1963年のように南下しなかつた。また、アリューシャン低気圧は1963年より東・西に分れて発達し、低圧部はかなり低かつた。

北暖はアリューシャン方面の気圧が平年より12mb高く、この西側を暖気が北上したことによる。北暖・西冷、北陸多雪は両年の共通点である。

本年2月の北半球帯状指数は1963年と同程度で、寒気は西日本から中国東部におよんでいる。2月中旬を中心とした全球東西指数は、1963年の1月程度の低指数であつたが、3月中旬からは高指数にかわり、下旬は太平洋側は高指数に・アジア大陸は低指数に反転して、気温は月半まで著しい北暖・西冷であつたが、下旬には全国的に高温になつている。1963年3月も寒気の南下は50°N以北で、中緯度は正域になつている。(北海道の測候所は開設以来の高温で、西冷の中心は南西諸島の中部にあつた。)

本年4月は500mbジェットの位置が例年より南偏することが多かつたが、両年とも中緯度への南下はなかつた。(5月は省略した。気象庁予報部発行の季節予報資料№364・368・371・374・554・558・561・564を参照した。)

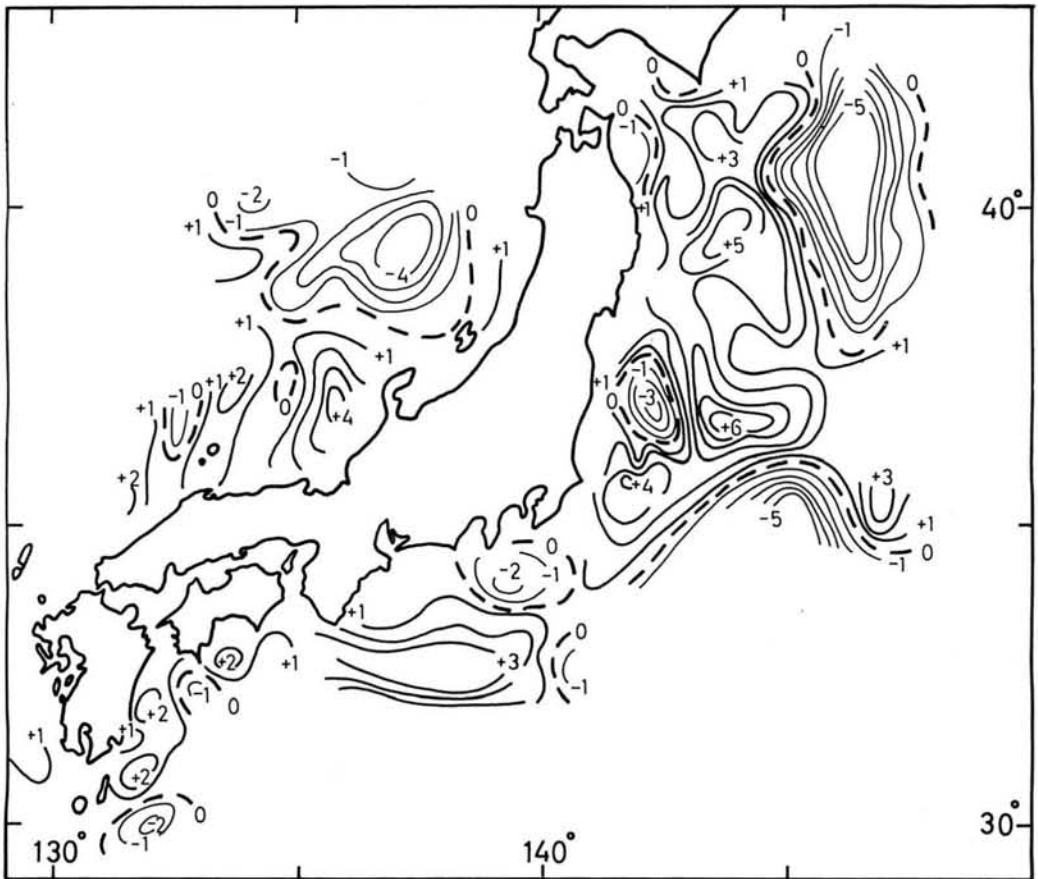
3) 海 況

表面水温・1月から5月まで、両年を比べてみると、偏差が北高南低である点は共通であるが、

北高の示度および広さは本年の方が1963年よりも大きく、南低の示度および広さは1963年の方が大きくなっている。この分布状態は、先に述べた気象の状態とよく一致している。

黒潮流軸の位置・本年2月の位置は1963年の2月の位置より、九州東および南沖・四国沖で離岸し、潮岬沖・遠州灘沖・房総沖では接岸しており、黒潮続流部は北偏している。共通点は八丈島の南を流れていたことである。

本年5月の位置は1963年の5月の位置より、九州東および南沖で離岸し、外房沖では接岸している。共通点は四国・潮岬に接岸し、八丈島の南を流れていることと、続流部の位置が概ね一致していることである。



才1図 2月の100m水温差(1968年~1963年)

100m水温・本年2月は1963年の2月より、表日本では種子島の南東・足摺岬の南・伊豆近海・八丈島の東および黒潮続流部の南・常盤東沖の一部・三陸北部の沿海および146°E付近の38°N~43°N付近までの水域が(1~5℃低)低いだけで、南西諸島の西から北海道の南

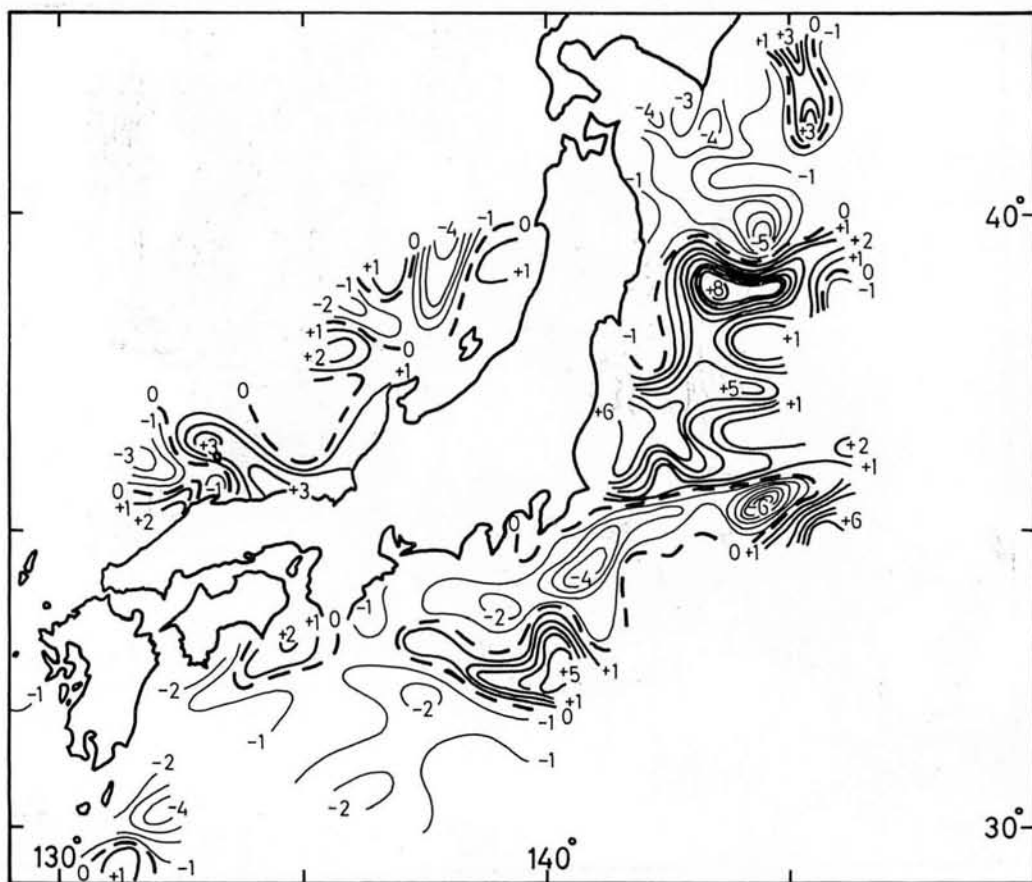
岸まで高め（1～5℃高）のところが多くなっている。

両年の5月を比べてみると2月とは反対に、1963年より低めのところが多くなつていて、1963年より高めのところは屋久島の南東沖の一部・紀伊水道付近・八丈島付近（1～5℃高）・犬吠崎付近から宮古付近までの沖合（1～8℃高）・釧路の南沖合のみで、ほかの水域は1～4℃低めであつた（才2図）。

なお、5℃線は本年の方が南偏しており、岸寄りの10℃線は本年の方が北偏している。

（以上が概要である。）

異常海況と云われる時は大方異常気象と云われる時が多い。異常海況を調査する際は、先ず気象資料を活用し海況にせまることが、ナゾを解く鍵であると考えている。



才2図 5月の100m水温差（1968年～1963年）